

社会福祉事業

1, 特別養護老人ホーム水彩館

① 平均稼働率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
利用者延人数	2,144	2,275	2,202	2,362	2,439	2,413	2,413	2,422	2,481	2,449	2,219	2,381	2,350
1日平均数	71.5	73.4	73.4	76.2	78.7	80.4	77.8	80.7	80.0	79.0	79.3	76.8	77.3
稼働率	85.1%	87.4%	87.4%	90.7%	93.7%	95.8%	92.7%	96.1%	95.3%	94.0%	94.3%	91.4%	92.0%

② 日常生活状況（3月末時点）

区分	食事			排泄			入浴			歩行		
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助
人数	37	29	16	4	45	33	0	41	41	1	10	0
区分	寝返り			車椅子			整容動作			褥瘡	胃ろう	酸素
	自立	一部介助	全部介助	自走	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助			
人数	35	25	22	10	20	41	7	31	44	2	2	0

③ 計画に関する報告

ベッド数	84 床	年間利用可能床数	30,660 床
------	------	----------	----------

① 収益計画（稼働率・顧客確保）

項目	達成・成果等
・ 稼働率 93.3% 目標	・ 未達成 92.0%
・ 平均的要介護度 4.0 を目安とする	・ ほぼ達成
・ 昨年度より入院人数の削減を試みる（－5％）	・ 入院延べ人数＋6名（30名） 入院延べ日数－174日（－13％）
・ 平均空床期間を昨年度より削減する（－5％）	・ 19.3日（昨年度20日）－9.7％
・ 医務室、施設課を中心にご利用者の健康管理や家族状況等の情報共有	・ 新たな嘱託医のもと連携強化実施
・ 嘱託医との連携により負担となる受診や入院を最小限に留める	・ 医療処置について嘱託医の指示のもと見直し実施し、負担軽減

・ 日常生活継続支援加算算定要件を意識し算定継続	・ 算定継続中
・ 定期的なルート営業先を検討し実施（月1回以上）	・ 達成
・ 取手市内外エリアの営業先選定及び実施と、新規提携先を開拓（2か所以上）	・ 老健等との連携強化実施
・ 待機者減少下においても集客を向上させる営業手段の検討（検討会議を開催）	・ 定期的に開催中
・ 魅力度UPへのアイデア、改善点や方針の検討	・ 会議等にて検討及び実践中
・ 顧客満足度（CS）向上を視野に入れた情報交換と、現場を含む検討会の実施	・ 定期的に開催中
・ 報酬改定による新たな加算項目を検討実施しサービス向上につなげる	・ 現在検討中

② 職員教育・生産性向上計画（技術・研修・効率）

項目	達成・成果等
(1) 技術力向上	
i 身体介助 ・ 尊厳保持、安全配慮、心地よさ、機能維持、健康管理 ・ 身体介助にかかわるケアマイスター制度の検討、実施 ・ 医療依存度の高いご利用者へのケアの質の向上、教育、医療連携 ・ 医療との連携をはかり、軽症のうちに処、報告する能力向上	・ 継続実施 ・ 未達成。実施について来年度も検討 ・ 嘱託医、医務室中心に実践中 ・ 継続実施
ii 動作介助 ・ 身体の動作理論を学び、移乗動作やポジショニングを理解し実践する ・ 個々の身体状態に沿ったアセスメントを行える力を養う ・ 動作介助理論を活用した機能維持を実践するユニットを選定	・ 外部理学療法士が定期的に来館 ・ プロジェクトメンバーを選任し実践中 ・ プロジェクトメンバーの所属ユニットを中心に実施中
iii 環境整備 ・ ご利用者にとって安心して暮らせるその人らしい環境の整備 ・ 館内、居室の清掃、整理整頓、衛生管理、感染まん延防止対策 ・ 環境整備担当を分業し効率化をはかる	・ 継続実施中 ・ クリーンスタッフによる館内やユニット内の清潔保持継続実施 ・ 一部ユニットに配置、実践中
iv 認知症対応 ・ 認知症の行動心理症状の発現理由を探究し穏やかに生活いただくための取組み ・ ご本人のその人らしさを継続するためのご本人の思いを聴く取組み（ACP）	・ 継続実施 ・ マニュアルなどの検討

	・ 認知症介護に係る専門的な研修の受講の継続 ・ 認知症の方が暮らしやすい施設であるための認知症の理解や整備	・ 継続実施 ・ 研修受講など継続実施
(2) 研修について		
i 内部研修	・ 研修計画に沿った内部研修の実施 ・ 動作介助法：月1回定期開催 選任理学療法士による指導研修を実施 ・ 医療知識と対応等：年1～2回 嘱託医を中心とした医療従事者による指導研修 ・ ジョブメドレーアカデミーを活用したオンライン研修の継続実施 ・ 外国人材の受入れ、定着について、内部での教育体制を構築する	・ 仕組みや研修報告の取りまとめについて一部不足があり来年度は変更予定 ・ 今年度未実施 ・ 実施 ・ 実施 受け入れに伴う外部研修の受講
ii 外部研修について	・ 知識の向上、最新情報収集、内部研修実施等のため職種、職位ごとの受講促進 ・ 館内での外部講師による研修の実施,その受講 ・ 老施協、介護福祉士会、その他職能団体、地域連携による研修受講の促進 ・ 地域や職能団体等の依頼に応じて外部講師として専門職の派遣	・ 受講推進 実施 ・ 受講推進 実施 ・ 受講推進 実施 ・ 近隣訪看による医療的研修の実施
ii 職員教育	・ ハラスメント防止についての教育 ・ 利用者の人権尊重についての教育 ・ 職位、職種に係らず受講可能な館外部での研修の受講促進 ・ 老施協、介護福祉士会、その他職能団体、地域連携による研修への参加	・ 実施 ・ 実施 ・ 実施 ・ 実施
(3) 生産性向上（効率能率UP）		
	・ 効率能率UPに繋がる ICT・AI等を活用し、事務作業の効率や見守り等の機器の調査	・ タブレット端末の活用等で実践中
	・ 浸透している既存業務内容やシフト作成等の見直しと改善	・ 現在検討中
	・ 労働生産性数5%向上への検討と準備（常勤換算率の削減方法を審議し実践へ）	・ 特定技能実習生の受入対応の為、常勤換算は増加となり未達成
	・ 職務意欲が高い職員へのモチベーション向上への検討	
	・ オートメーション化可能な事柄の検討	・ 勤怠管理システムの導入
	・ 研修や勉強会の在り方を検討し、優位性を高めた無駄のない人材教育方法を検討	・ 今年度はeラーニングを活用 対面、グループワークについても実施
	・ 生産性向上委員会の設置	・ 設置

③ ご利用者への支援計画（自立支援・重度化防止・レク提供）

項目	達成・成果等
(1) 自立支援 ・ その人らしさを把握し、ご利用者主体となるような暮らしの実現 ・ セラピストによる個別的な機能訓練の実施 ・ 嚥下体操、全身体操あっとほーむ体操の全体的な実施 ・ 栄養管理、口腔管理の意識向上 ・ 日常生活内の家事（洗濯物たたみ等）を生活リハビリの一環として実施 ・ 新たな生活リハビリとなりうる動作の検討,実施 ・ 移乗移動時において、ご本人の残存機能を活用し日常的に機能訓練となるよう介護側の意識と技術の向上	・ その人らしさについてのユニット内での検討実践中 ・ 外部理学療法士からのアドバイスをもとに実践、継続中 ・ 専門職中心に継続実施 ・ ユニット内にて継続実施 ・ 外部理学療法士からのアドバイスをもとに実践、継続中
(2) 重度化防止 ・ (1)の自立支援の遂行による機能の維持 ・ 嘱託医を中心に多職種連携し重度化の予防策の検討とその実施 ・ 寝たきり防止等、ご本人の意欲向上に向けたアセスメントとその実践	・ 継続実施 ・ 嘱託医回診時に検討会の実施 ・ 継続実施
(3) レクリエーション提供 ・ ご利用者様の意向に沿ったレクリエーションの選定、提供 ・ 数年ぶりの大規模イベントの開催（秋頃を予定） ・ 季節感を味わえるレクリエーションの提供 ・ 外食やテイクアウトによる食の楽しみ提供を実施 ・ レク提供のアウトソーシングやDX化を検討し活用を試みる	・ ユニット内のレクリエーションを中心に実践、実施中 ・ 秋祭りの実施 ・ ユニットごとに実施 ・ 外部委託については未実施、今後検討

④ 医療と看取り対応方針

項目	達成・成果等
(1) 医療体制と対応 ・ 嘱託医を中心とした早期判断・対応での医療体制を組み、適切な判断にて、受診対応や回数、入院率の削減を試みる（オンライン活用・DX医療機器活用含む） ・ 褥瘡対応、インスリン対応、ストーマケア対応、口腔ケア・栄養に関する対応、在宅酸素対応、胃ろう対応等の受入れ、適切な処置と管理の実施 ・ カルテや経過記録、健康診断記録等の事務業務の適切な管理	・ 医務室との連携により早期対応実践中 オンラインを活用した回診日以外での相談体制の構築、継続実施。 ・ 嘱託医への相談のもと受け入れ実施 ・ 実施

・ DNAR（心配蘇生を望まない） ・ 協力医療機関との連携体制の構築（報酬改定内容の実施についての検討）	・ マニュアル等の整備検討中 ・ 協力医療機関との連携、状況の確認中
(2) 看取り対応 ・ 本人、家族との十分なお気持ち確認の場の確保（ACPアドバンスケアプランニング） ・ 嘱託医による看取りについての教育（ご家族向け、職員向け） ・ 多職種連携し、看取り期における暮らしを支えるスキルの向上 ・ 看取り期における食事や水分の摂取についての個別の検討、共通認識 ・ 看取り後のグリーフケアや、ご家族からのご意見、看取り対応の振返り	・ 継続実践中 ・ 今年度は未実施 ・ 継続実践中 ・ 継続実践中 ・ 継続実践中

⑤ 権利擁護

項目	達成・成果等
・ ご利用者の尊厳保持、権利擁護を目的とし、正しい知識をもって対応を行う	・ 継続実践中
・ 虐待行為の禁止	・ 継続実践中
・ プライバシー保護、個人情報保護	・ 継続実践中
・ 身体拘束ゼロの推進、実施せざるを得ない場合の要件の認識	・ 研修等での周知、継続実践中
・ 身体拘束適正化委員会の定期開催、研修の実施	・ 継続実践中
・ 身体拘束廃止未実施減算の内容把握、取組、その周知徹底	・ 継続実践中
・ ハラスメント対策、対応	・ 研修等での周知、継続実践中

⑥ 防災計画・感染症対策・事故防止対策

項目	達成・成果等
(1) 防災計画 - i 水害対策訓練 ・ 利根川、小貝川、北浦川、相野谷川の水位状況の把握の仕方や、その状況に応じた避難準備や指示の方法を学ぶ ・ 垂直避難時の昇降訓練の実施（屋上避難階段の活用含む） ・ 垂直避難時の利用者、職員配置場所や発電機及び必要物資の設置場所確認 ・ 水平避難の検討、訓練（避難場所、避難方法など） ・ 全職員への通達訓練（一斉メール活用訓練）	・ 7/30実施

	ii 地震対策訓練 - 施設内の火災箇所、破損個所の確認や各浴槽への貯水、電力確保準備の訓練 - 非常食等の必要物資配布の訓練	・ 1/27実施
	iii 火災対策訓練（年2回） - 消防計画に則り各想定において訓練実施する - 通報、消火、避難対応訓練の実施	・ 10/28他実施
	iv 防犯対策訓練 専門家を招いた防犯対策研修や、契約警備会社との通報訓練の実施	・ 3/21実施
	v 福祉避難所としての役割 - 福祉避難所としての有事の際の役割の明確化 - 備蓄品、個数等の管理	・ 公的機関との連携 ・ 館外の方の分については今後検討
(2) 感染症対策		
	・ 5類としての新型コロナウイルス対策の強化と情報連携の継続	・ 実施
	・ 嘱託医、産業医、保健所、協力医療機関、その他公的機関との連携、相談、指示の元対応する	・ 実施
	・ 最新情報収集をもとに各種感染症に対するマニュアルの確認と必要に応じた更新	・ 実施
	・ 各種感染症に対する予防や対応訓練を実施(年2回)	・ 実施 全員参加の方法について検討
	・ ゾーニングについて、シミュレーション実践及び机上訓練の実施	・ 実施 全員参加の方法について検討
	・ 感染症対策委員会や看護職員が行う内部研修の実施	・ 実施
	・ ご利用者、職員共に予防接種の実施とその把握（インフルエンザ・コロナワクチン）	・ 実施
(3) 事故防止対策		
	- 事故防止、リスクマネジメント、その対応についての検討、改善 - 救急、医療連携による迅速な対応 - ご家族への連絡、その対応及び、保険者、必要機関等への報告 - 嘱託医、産業医への報告相談	・ 委員会を中心に実施

⑦ ご家族・公的機関等との対応

項目	達成・成果等
(1) ご家族との連携、対応	
・ 集合型の家族説明会等の実施方法を検討し実践	・ 未実施
・ 毎月の書面による館内報告、HP上での報告	・ 実施
・ 日頃からの個別の状況報告の継続	・ 継続実施
・ 面会の在り方については、都度感染状況に合わせた対応とその周知を行う	・ 毎月のお便り等で周知実施

	・ 各種計画書等更新の際のご意見、書面、別途アンケートなどを用いて意見を聴取	・ 実施
	・ 毎年度一回家族向けアンケートの実施、その集計と活用、結果の報告	・ 実施
	・ 専用メール等を活用しご意見をいただく機会の確保、情報や意見交換を行う	・ 実施
(2) 公的機関との連携、協力（県、市、保険者、保健所など）		
	・ 公的機関主催の各種会議や研修への参加、委員としての出席	・ 実施
	・ 公的機関主催の行事等への参加、協力	・ 実施
	・ 入所判定に関わる協力依頼	・ 実施
	・ 緊急受入れ依頼時の体制整備（困難、虐待ケース、包括等の公的機関からの依頼等）	・ 依頼を受け調整、実施
	・ 認定調査等の受託、日程調整、調査、立ち合いなどの協力	・ 実施
	・ 感染症や苦情、事故等についての報告、相談	・ 実施
(3) その他の機関との連携、協力（経営協、全国老施協、茨城県老施協、介護福祉士会など）		
	・ 各種会議や研修への参加、行事等への参加、協力	・ 実施、参加
	・ 情報収集し、活用	・ 情報を職員に周知し活用している 継続
	・ 有事の際の相談、支援の依頼先としての位置付け	・ 有事があれば協力体制としている 継続

2, ショートステイ水彩館

① 平均稼働率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
利用者延人数	412	429	464	467	469	429	429	393	441	406	395	431	430
1日平均数	13.7	13.8	15.5	15.1	15.1	14.3	13.8	13.1	14.2	13.1	14.1	13.9	14.2
稼働率	85.8%	86.5%	96.7%	94.2%	94.6%	89.4%	86.5%	81.9%	88.9%	81.9%	88.2%	86.9%	88.4%

② 日常生活状況（3月末時点）

区分	食事			排泄			入浴			歩行		
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助
人数	5	7	0	3	6	3	1	9	2	3	5	4
区分	寝返り			車椅子			整容動作			褥瘡	胃ろう	酸素
	自立	一部介助	全部介助	自走	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助			
人数	7	3	2	1	1	4	5	5	2	0	0	0

③ 計画に関する報告

ベッド数	16 床	年間利用可能床数	5,840 床
------	------	----------	---------

① 収益計画（稼働率・顧客確保）

項目	達成・成果等
・ 稼働率 89.6% 目標	・ 未達成 88.4%
・ 平均的要介護度 2.8 を目安とする	・ 達成
・ 平均空床期間を昨年度より削減する（－5％）	・ 稼働率未達成のため未達成
・ 嘱託医との連携により病院受診や入院を最小限に留める（長期間利用者）	・ 嘱託医変更となり連携強化し対応中
・ 定期的なルート営業先を検討し実施（月1回以上）	・ 達成
・ 取手市内外エリアの営業先選定及び実施と、新規提携先を開拓（2か所以上）	・ 市外の選定先については今後も継続検討
・ 待機者減少においてもサービス利用向上のための営業手段の検討（検討会議を開催）	・ 定期的に開催中
・ 魅力度UPへのアイデア、改善点や方針の検討	・ 会議等にて検討及び実践中
・ 顧客満足度（CS）向上を視野に入れた情報交換と、現場を含む検討会の実施	・ 定期的に開催中

・ 外部居宅や包括等の連携室との連携、併設居宅とも連携強化を保つ	・ 連携会議にて情報共有、連携の強化実施
・ 報酬改定による新たな加算項目を検討実施しサービス向上につなげる	・ 現在検討中

② 職員教育・生産性向上計画（技術・研修・効率）

項目	達成・成果等
(1) 技術力向上	
i 身体介助 ・ 尊厳保持、安全配慮、心地よさ、機能維持、健康管理 ・ 身体介助にかかわるケアマイスター制度の検討、実施 ・ 医療依存度の高いご利用者へのケアの質の向上、教育、医療連携 ・ 医療との連携をはかり、軽症のうちに対処、報告する能力向上	・ 継続実施 ・ 未達成。実施について来年度も検討 ・ 嘱託医、医務室中心に実践中 ・ 継続実施
ii 動作介助 ・ 身体の動作理論を学び、移乗動作やポジショニングを理解し実践する ・ 個々の身体状態に沿ったアセスメントを行える力を養う ・ 動作介助理論を活用した機能維持を実践するユニットを選定	・ 外部理学療法士が定期的に来館 ・ プロジェクトメンバーを選任し実践中 ・ プロジェクトメンバーの所属ユニットを中心に実施中
iii 環境整備 ・ ご利用者にとって安心して暮らせるその人らしい環境の整備 ・ 館内、居室の清掃、整理整頓、衛生管理、感染まん延防止対策 ・ 環境整備担当を分業し効率化をはかる	・ 継続実施中 ・ クリーンスタッフによる館内やユニット内の清潔保持継続実施 ・ 一部ユニットに配置、実践中
iv 認知症対応 ・ 認知症の行動心理症状の発現理由を探求し穏やかに生活いただくための取組み ・ ご本人のその人らしさを継続するためのご本人の思いを聴く取組み（ACP） ・ 認知症介護に係る専門的な研修の受講の継続 ・ 認知症の方が暮らしやすい施設であるための認知症の理解や整備	・ 継続実施 ・ マニュアルなどの検討 ・ 継続実施 ・ 研修受講など継続実施
(2) 研修について	
i 内部研修 ・ 研修計画に沿った内部研修の実施 ・ 動作介助法：月 1 回定期開催 選任理学療法士による指導研修を実施	・ 仕組みや研修報告の取りまとめについて一部不足があり来年度は変更予定

	・ 医療知識と対応等：年1～2回 嘱託医を中心とした医療従事者による指導研修 ・ ジョブメドレーアカデミーを活用したオンライン研修の継続実施 ・ 外国人材の受入れ、定着について、内部での教育体制を構築する	・ 今年度未実施 ・ 実施 ・ 実施 受け入れに伴う外部研修の受講
ii 外部研修について	・ 知識の向上、最新情報収集、内部研修実施等のため職種、職位ごとの受講促進 ・ 館内での外部講師による研修の実施,その受講 ・ 老施協、介護福祉士会、その他職能団体、地域連携による研修受講の促進 ・ 地域や職能団体等の依頼に応じて外部講師として専門職の派遣	・ 受講推進 実施 ・ 受講推進 実施 ・ 受講推進 実施 ・ 近隣訪看による医療的研修の実施
ii 職員教育	・ ハラスメント防止についての教育 ・ 利用者の人権尊重についての教育 ・ 職位、職種に係らず受講可能な館外部での研修の受講促進 ・ 老施協、介護福祉士会、その他職能団体、地域連携による研修への参加	・ 実施 ・ 実施 ・ 実施 ・ 実施
(3) 生産性向上（効率能率UP）		
	・ 効率能率UPに繋がる ICT・AI等を活用し、事務作業の効率や見守り等の機器の調査	・ タブレット端末の活用等で実践中
	・ 浸透している既存業務内容やシフト作成等の見直しと改善	・ 現在検討中
	・ 労働生産性数5%向上への検討と準備（常勤換算率の削減方法を審議し実践へ）	・ 特定技能実習生の受入対応の為、常勤換算は増加となり未達成
	・ 職務意欲が高い職員へのモチベーション向上への検討	
	・ オートメーション化可能な事柄の検討	・ 勤怠管理システムの導入
	・ 研修や勉強会の在り方を検討し、優位性を高めた無駄のない人材教育方法を検討	・ 今年度はeラーニングを活用 対面、グループワークについても実施
	・ 生産性向上委員会の設置	・ 設置

③ ご利用者への支援計画（自立支援・重度化防止・レク提供）

項目	達成・成果等
(1) 自立支援 ・ セラピストによる個別的な機能訓練の実施 ・ 嚥下体操、全身体操あっとほーむ体操の全体的な実施 ・ 栄養管理や口腔管理への意識向上	・ 外部理学療法士からのアドバイスをもとに実践、継続中 ・ 専門職中心に継続実施

・ 日常生活内の家事（洗濯物たたみ等）を生活リハビリの一環として実施 ・ 新たな生活リハビリとなりうる動作の検討、実施 移乗移動時において、ご本人の残存機能を活用し日常的に機能訓練となるよう 介護側の意識と技術の向上	・ ユニット内にて継続実施 ・ 外部理学療法士からのアドバイスをもとに 実践、継続中
(2) 重度化防止 ・ (1)の自立支援の遂行 ・ 医務室を中心とした予防策の検討とその実施 ・ 寝たきり防止等、ご本人の意欲向上に向けたアセスメントとその実践	・ 継続実施 ・ 嘱託医回診時に検討会の実施 ・ 継続実施
(3) レクリエーション提供 ・ ご利用者様の意向に沿ったレクリエーションの選定、提供 ・ 次回利用につながる個別で満足度の高いレクリエーションの提供 ・ 数年ぶりの大規模イベントの開催（秋頃を予定） ・ 季節感を味わえるレクリエーションの提供 ・ 外食やテイクアウトによる食の楽しみ提供を実施 ・ レク提供のアウトソーシングやDX化を検討し活用を試みる	・ ユニット内のレクリエーションを中心に 実践、実施中 ・ ユニット内のレクリエーションを中心に 実践、実施中 ・ 秋祭りの実施 ・ ユニットごとに実施 ・ 外部委託については未実施、今後検討

④ 医療と看取り対応方針

項目	達成・成果等
(1) 医療体制と対応 ・ 早期判断・対応での医療体制を組み、適切な判断にて受診対応や回数、入院率の削減を試みる（オンライン活用・DX医療機器活用含む） ・ 褥瘡対応、インスリン対応、ストーマケア対応、口腔ケア・栄養に関する対応、在宅酸素対応、胃ろう対応等の受入れの検討、適切な処置と管理 ・ カルテや経過記録、健康診断記録等の事務業務の適切な管理 ・ かかりつけ主治医、嘱託医との連携	・ 医務室との連携により早期対応実践中 オンラインを活用した回診日以外での相談体制の構築、継続実施。 ・ 嘱託医への相談のもと受け入れ実施 ・ 実施 ・ 今後嘱託医と相談しながら連携の検討
(2) 看取り対応 報酬改定にて加算項目が新設、ご利用者のニーズと医療連携のバランスを鑑み準備	・ かかりつけ医と嘱託医の連携の構築について引続き検討

⑤ 権利擁護

項目	達成・成果等
・ ご利用者の尊厳保持、権利擁護を目的とし、正しい知識をもって対応を行う	・ 継続実践中

・ 虐待行為の禁止	・ 継続実践中
・ プライバシー保護、個人情報保護	・ 継続実践中
・ 身体拘束ゼロの推進、実施せざるを得ない場合の要件の認識	・ 研修等での周知、継続実践中
・ 身体拘束適正化委員会の定期開催、研修の実施	・ 継続実践中
・ 身体拘束廃止未実施減算の内容把握、取組、その周知徹底	・ 継続実践中
・ ハラスメント対策、対応	・ 研修等での周知、継続実践中

⑥ 防災計画・感染症対策・事故防止対策

項目	達成・成果等
(1) 防災計画	
i 水害対策訓練 ・ 利根川、小貝川、北浦川、相野谷川の水位状況の把握の仕方や、その状況に応じた避難準備や指示の方法を学ぶ ・ 垂直避難時の昇降訓練の実施（屋上避難階段の活用含む） ・ 垂直避難時の利用者、職員配置場所や発電機及び必要物資の設置場所確認 ・ 水平避難の検討、訓練（避難場所、避難方法など） ・ 全職員への通達訓練（一斉メール活用訓練）	・ 7/30実施
ii 地震対策訓練 ・ 施設内の火災箇所、破損個所の確認や各浴槽への貯水、電力確保準備の訓練 ・ 非常食等の必要物資配布の訓練	・ 1/27実施
iii 火災対策訓練（年2回） ・ 消防計画に則り各想定において訓練実施する ・ 通報、消火、避難対応訓練の実施	・ 10/28他、実施
iv 在宅における災害支援 ・ 平常時より利用者のリスク管理、避難場所の把握、退所のタイミングの確認 ・ 災害時利用者の安否確認、支援の必要性の判断と対策	・ マニュアルの整備 ・ 検討継続
v 送迎時の安全運転にかかわる訓練 ・ 安全運転研修の受講と安全運転の心がけ ・ 定期的な安全運転講習等の受講 ・ 交通事故、災害等イレギュラーなトラブルへの対応	・ 送迎担当者会議時に実施
vi 防犯対策訓練 ・ 専門家を招いた防犯対策研修や、契約警備会社との通報訓練の実施	・ 3/21実施

(2) 感染症対策	
・ 5類としての新型コロナウイルス対策の強化と情報連携の継続	・ 実施
・ 在宅でのご本人、同居の家族等の健康状態等、確認できる範囲において把握	・ 実施
・ 利用中の体調変化時のルールの厳守	・ 実施
・ 最新情報収集をもとに各種感染症に対するマニュアルの確認と必要に応じた更新	・ 実施
・ 各種感染症に対する予防や対応訓練を実施(年2回)	・ 実施 全員参加の方法の検討
・ ゾーニングについて、シミュレーション実践及び机上訓練の実施	・ 実施 全員参加の方法の検討
・ 感染症対策委員会や看護職員が行う内部研修の実施	・ 実施
・ 既往等による体調変化についての事前相談とその周知、ルールの厳守	・ 実施
・ ご利用者、職員共に予防接種の実施とその把握(インフルエンザ・コロナワクチン)	・ 実施
(3) 事故防止対策	
・ 事故防止、リスクマネジメント、その対応についての検討、改善	・ 委員会を中心に実施
・ 救急、医療連携による迅速な対応	
・ ご家族への連絡、その対応及び、保険者、必要機関等への報告	
・ 嘱託医、産業医への報告相談	

⑦ ご家族・公的機関等との対応

項目	達成・成果等
(1) ご家族との連携、対応	
・ 集合型の家族説明会等に代わる方法を検討し実践	・ 未実施
・ 毎月の書面による館内報告、HP上での報告	・ 実施
・ 日頃からの個別の状況報告の継続	・ 継続実施
・ 面会の在り方については、都度感染状況に合わせた対応とその周知を行う	・ 毎月のお便り等で周知実施
・ 各種計画書等更新の際のご意見、書面、別途アンケートなどを用いて意見を聴取	・ 実施
・ 毎年度一回家族向けアンケートの実施、その集計と結果の報告	・ 実施
・ 専用メール等を活用しご意見をいただく機会の確保、情報や意見交換を行う	・ 実施
(2) 公的機関との連携、協力（県、市、保険者、保健所など）	
・ 公的機関主催の各種会議や研修への参加、委員としての出席	・ 実施
・ 公的機関主催の行事等への参加、協力	・ 実施

	・ 緊急受入れ依頼時の体制整備（困難、虐待ケース、包括等の公的機関からの依頼等） ・ 認定調査等の受託、日程調整、調査、立ち合いなどの協力 ・ 感染症や苦情、事故等についての報告、相談	・ 依頼を受け調整、実施 ・ 実施 ・ 実施
(3)	その他の機関との連携、協力（経営協、全国老施協、茨城県老施協など）	
	・ 各種会議や研修への参加、行事等への参加、協力 ・ 情報収集し、活用 ・ 有事の際の相談、支援の依頼先としての位置付け	・ 事業所としての参加は無し ・ 情報を職員に周知し活用している 継続 ・ 有事があれば協力体制としている 継続

3, デイサービスセンター水彩館

① 平均稼働率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
稼働日数	26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	24	26	26
利用者延人数	453	450	483	551	539	507	507	542	542	443	433	436	491
1日平均数	17.4	16.7	19.3	20.4	20.0	20.3	18.8	20.8	21.7	18.5	18.0	16.8	19.1
稼働率	69.7%	66.7%	77.3%	81.6%	79.9%	81.1%	75.1%	83.4%	86.7%	73.8%	72.2%	67.1%	76.2%

② 日常生活状況（3月末時点）

区分	食事			排泄			入浴			歩行		
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	車椅子
人数	48	1	3	21	31	0	9	35	8	15	28	9

③ 計画に関する報告

1日定員数	25名	年間利用可能人数	7,725名(309日)
-------	-----	----------	--------------

① 収益計画（稼働率・顧客確保）

項目	達成・成果等
・ 稼働率 77.4% 目標	・ 未達成 76.2%
・ 定期的なルート営業先を検討し実施（月1回以上）	・ 実績報告時に実施
・ 取手市内外エリアの営業先選定及び実施と、新規提携先を開拓（2か所以上）	・ 現状維持、市外選定は実施せず
・ 顧客不足下においても集客を向上させる営業手段の検討（検討会議を開催）	・ 定期的に開催中
・ 魅力度UPへの改善点や方針の検討	・ 会議等にて検討及び実践中
・ 顧客満足度（CS）向上を視野に入れた情報交換と、現場を含む検討会の実施	・ 定期的に開催中
・ 外部居宅のみならず、併設居宅とも連携強化を保つ	・ 連携会議の継続実施
・ 新たな加算への検討と実施	・ 現在検討中

② 職員教育・生産性向上計画（技術・研修・効率）

項目	達成・成果等
(1) 技術力向上	
i 身体介助 ・ 尊厳保持、安全配慮、心地よさ、機能維持、健康管理 ・ 身体介助にかかわるケアマイスター制度の検討、実施	・ 部署内会議などで検討実施

	・ 医療依存度の高いご利用者へのケアの質の向上、教育、医療連携 ・ 主治医等 医療との連携をはかる	・ 未実施、今後検討
ii 動作介助	・ 身体の動作理論を学び、移乗動作やポジショニングを理解し実践する	・ 外部理学療法士の指導のもと実施
	・ 個々の身体状態に沿ったアセスメントを行える力を養う ・ 動作介助理論を活用した機能維持のための機能訓練を実践する	
iii 環境整備	・ ご利用者にとって安心してご利用できる環境の整備 ・ デイサービス内清掃、整理整頓、衛生管理、感染まん延防止対策	・ 部署内の会議などで検討実施
iv 認知症対応	・ 認知症の行動心理症状の発現理由を探究し穏やかに生活いただくための取組み ・ ご本人のその人らしさを継続するためのご本人の思いを聴く取組み（ACP） ・ 認知症介護に係る専門的な研修の受講の継続 ・ 認知症の方が暮らしやすい施設であるための認知症の理解や整備	・ 部署内会議などで検討実施
(2) 研修について		
i 内部研修	・ 入浴についての研修の実施 ・ 研修計画に沿った内部研修の実施 ・ 動作介助法：月1回定期開催 選任理学療法士による指導研修を実施 ・ 医療知識と対応等：年1～2回 嘱託医を中心とした医療従事者による指導研修 ・ ジョブメドレーアカデミーを活用したオンライン研修の継続実施 ・ 外国人材の受入れ、定着について、内部での教育体制を構築する	・ 毎月テーマを変え実施 ・ 主にeラーニングを使って実施 ・ 実施 ・ 実施 ・ 個別に受講実施 ・ 内部研修の実施、連携会議で検討し実施
ii 外部研修について	・ 知識の向上、最新情報収集、内部研修実施等のため職種、職位ごとの受講促進 ・ 館内での外部講師による研修の実施、その受講 ・ 老施協、介護福祉士会、その他職能団体、地域連携による研修受講の促進 ・ 地域や職能団体等の依頼に応じて外部講師として専門職の派遣	・ 実施 ・ 業務都合により未受講 今後検討 ・ 彩の集いにて講師、その補助として実施

ii 職員教育	・ ハラスメント防止についての教育 ・ 利用者の人権尊重についての教育 ・ 職位、職種に係らず受講可能な館外部での研修の受講促進 ・ 老施協、介護福祉士会、その他職能団体、地域連携による研修への参加	・ 継続実施 ・ 継続実施 ・ 継続実施 ・ 業務都合により未受講、今後検討
(3) 生産性向上（効率能率UP）		
	・ 効率能率UPに繋がる ICT・AI等を活用し、事務作業の効率や見守り等の機器の調査 ・ 浸透している既存業務内容やシフト作成等の見直しと改善	・ タブレット端末の活用等で実践中 ・ 現在検討中
	・ 労働生産性数5%向上への検討と準備（常勤換算率の削減方法を審議し実践へ）	・ 今年度は人材の入替が多く、現在対応中
	・ 職務意欲が高い職員へのモチベーション向上への検討	・ 内容について今後も検討
	・ オートメーション化可能な事柄の検討	・ 勤怠管理システムの導入
	・ 研修や勉強会の在り方を検討し、優位性を高めた無駄のない人材教育方法を検討	・ 継続的に検討
	・ 生産性向上委員会の設置	・ 設置済み

③ ご利用者への支援計画（リハビリ・レクリエーション提供計画）

項目	達成・成果等
(1) 機能訓練提供計画 ・ 毎月定期的に専門家により個々の機能訓練の実施状況の確認とその見直し ・ 利用者の目指す目標に合った、個別の機能訓練方針を検討し提案 ・ 機能向上、維持が見られるような機能訓練の提供 ・ 嚥下体操、全身体操あっとほーむ体操の毎回の実施 ・ 口腔管理の重要性を意識づける機会の確保 ・ 生活リハビリとして、その方にあった役割の提案、実施 ・ 動作介助時において、残存機能箇所を活用した乗乗による機能訓練 ・ 計画書を作成し担当ケアマネジャーに相談、報告する	・ 外部講師による定期的な指導のもと実施 ・ 実施 ・ 継続実施 ・ 継続実施 ・ 継続実施 ・ 継続実施 ・ 継続実施
(2) レクリエーション娯楽提供計画 ・ ご利用者様の意向、個別性に沿ったレクリエーションの選定、提供 ・ 数年ぶりの大規模イベントの開催（秋頃を予定） ・ 季節感を味わえるレクリエーションの提供 ・ 外食やテイクアウトによる食の楽しみ提供を実施	・ 工夫し楽しめる内容の選定、提供の実施 ・ 秋祭りの実施、参加 ・ 実施 ・ 実施

・ レク提供のアウトソーシングやDX化を検討し活用を試みる	・ 未実施、今後活用の検討
-------------------------------	---------------

④ 権利擁護

項目	達成・成果等
・ ご利用者の尊厳保持、権利擁護を目的とし、正しい知識をもって対応を行う	・ 継続実施
・ 虐待行為の禁止	・ 継続実施
・ プライバシー保護、個人情報保護	・ 継続実施
・ 身体拘束ゼロの推進	・ 継続実施
・ 身体拘束適正化委員会の定期開催、研修の実施	・ 継続実施
・ ハラスメント対策、対応	・ 継続実施

⑤ 防災計画・感染症対策・事故防止対策

項目	達成・成果等
(1) 防災計画	
i 水害対策訓練 ・ 利根川、小貝川、北浦川、相野谷川の水位状況の把握の仕方や、その状況に応じた避難準備や指示の方法を学ぶ ・ 垂直避難時の昇降訓練の実施（屋上避難階段の活用含む） ・ 垂直避難時の利用者、職員配置場所や発電機及び必要物資の設置場所確認 ・ 全職員への通達訓練（一斉メール活用訓練）	・ 特養いように対応。
ii 地震対策訓練 ・ 施設内の火災箇所、破損個所の確認や各浴槽への貯水、電力確保準備の訓練 ・ 非常食等の必要物資配布の訓練	・ 特養と同様
iii 火災対策訓練（年2回） ・ 消防計画に則り各想定において訓練実施する ・ 通報、消火、避難対応訓練の実施	・ 特養と同様
iv 在宅における災害支援 ・ 平常時より利用者のリスク管理、避難場所の把握、送迎のタイミング確認 ・ 災害時利用者の安否確認、支援の必要性の判断と対策	・ ショートと同様
v 送迎時の安全運転にかかわる訓練 ・ 安全運転研修の受講と安全運転の心がけ ・ 定期的な安全運転講習等の受講 ・ 交通事故、災害等イレギュラーなトラブルへの対応	・ ドライバー会議時に実施

vi 防犯対策訓練	・ 特養と同様
・ 専門家を招いた防犯対策研修や、契約警備会社との通報訓練の実施	
(2) 感染症対策	
・ 5類としての新型コロナウイルス対策の強化と情報連携の継続	・ 実施
・ 在宅でのご本人、同居の家族等の健康状態等、確認できる範囲において把握	・ 実施
・ 利用中の体調変化時のルール of 厳守	・ 実施
・ 最新情報収集をもとに各種感染症に対するマニュアルの確認と必要に応じた更新	・ 実施
・ 各種感染症に対する予防や対応訓練を実施(年2回)	・ 実施 全員参加の方法の検討
・ 感染症対策委員会、看護職員が行う内部研修の実施	・ 実施
・ 既往等による体調変化についての事前相談とその周知、ルールの厳守	・ 実施
・ ご利用者、職員共に予防接種の実施とその把握(インフルエンザ・コロナワクチン)	・ 実施
(3) 事故防止対策	
・ 利用時の転倒、体調急変等医療機関への受診を基本とする	・ 委員会を中心に実施
・ 主治医、訪問看護等との医療連携、情報共有	・ 訪問看護看護職員との連携
・ ご家族への連絡方法の把握	・ 継続実施
・ ケアマネジャー、保険者、必要機関等への報告	・ 継続実施

⑥ ご家族・公的機関等との対応

項目	達成・成果等
(1) ご家族との連携、対応	
・ 集合型の家族説明会等に代わる方法を検討し実践	・ 未実施
・ 毎月の書面による館内報告、HP上での報告	・ 実施
・ 送迎時や担当者会議など日頃からの個別の対応、状況報告の継続	・ 継続実施
・ 各種計画書等更新の際のご意見、書面、別途アンケートなどを用いて意見を聴取	・ 実施
・ 毎年度一回家族向けアンケートの実施、その集計と結果の報告	・ 実施
(2) 公的機関との連携、協力（県、市、保険者、保健所など）	
・ 公的機関主催の各種会議や研修への参加、委員としての出席	・ 実施
・ 公的機関主催の行事等への参加、協力	・ 実施
・ 感染症や苦情、事故等についての報告、相談	・ 実施
(3) その他の機関との連携、協力（経営協、全国老施協、茨城県老施協など）	
・ 各種会議や研修への参加、行事等への参加、協力	・ 事業所としての参加は無し
・ 情報収集し、活用	・ 情報を職員に周知し活用している 継続
・ 有事の際の相談、支援の依頼先としての位置付け	・ 有事があれば協力体制としている 継続

① 平均訪問回数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
目標値	288.4	288.4	288.4	288.4	288.4	288.4	288.4	288.4	288.4	288.4	288.4	288.4	288.4
実績値	237.0	281.0	300.0	351.0	299.0	253.0	253.0	256.0	247.0	202.0	213.0	232.0	260.3
達成率	82.2%	97.4%	104.0%	121.7%	103.7%	87.7%	87.7%	88.8%	85.6%	70.0%	73.9%	80.4%	90.3%

① 収益計画

項目	達成・成果等
・ 目標月訪問件数 288.4 回	・ 未達成 260.3 回
・ 事業所認知度向上を目指し、困難事例や強みを強調しながら、効率的な営業活動を	・ 現在対応中
・ 外部居宅のみならず、併設居宅との連携も強化	・ 連携会議にて連携強化
・ 新規提携先を開拓	・ 現在進行中
・ 登録ヘルパーの確保	・ 現在対応 募集継続中

② 職員教育・生産性向上計画（技術・研修・効率）

項目	達成・成果等
(1) 技術力向上	
・ 在宅介護についての知識と経験値を、実務を介して習得する ・ 併設事業所を含め、経験豊富なスタッフから技術を学ぶ ・ あらゆる利用者の在宅介護が行えるよう、誰もが訪問できる体制の構築 ・ 状況に合わせ、可能な困難事例を受入れ在宅介護力を向上させる ・ 障害福祉サービスの利用者枠も設けていく ・ オンライン等DX対応を視野に入れた学びと試行を	・ 会議やOJTにより実践中 ・ 継続実施 ・ 人員不足の解消、継続実施 ・ 人員確保に伴い実施予定 ・ 依頼があった際に検討 ・ 実施
(2) 認知症対応	
・ 認知症の行動心理症状の発現理由を探究し穏やかに生活いただくための取組み ・ ご本人のその人らしさを継続するためのご本人の思いを聴く取組み（ACP） ・ 認知症介護に係る専門的な研修の受講の継続 ・ 認知症の方が暮らしやすい施設であるための認知症の理解や整備	・ 認知症についての理解、研修、共有など継続実施
(3) 研修について	
i 内部研修 ・ 研修計画に沿った内部研修の実施 ・ 動作介助法：月1回定期開催 選任理学療法士による指導研修を実施	・ 内部研修については業務都合で資料確認 ・ 対象ご利用者の選定をし指導うけ実践 ・ 他の職員とも共有

	・ 医療知識と対応等：年1～2回 嘱託医を中心とした医療従事者による指導研修 ・ ジョブメドレーアカデミーを活用したオンライン研修の継続実施	・ 今年度未実施 ・ 実施
ii 外部研修について		
	・ 知識の向上、最新情報収集、内部研修実施等のため職種、職位ごとの受講促進 ・ 館内での外部講師による研修の実施,その受講 ・ 老施協、介護福祉士会、その他職能団体、地域連携による研修受講の促進 ・ 地域や職能団体等の依頼に応じて外部講師として専門職の派遣	・ 業務都合で受講がかなわず 来年度は受講できるよう検討 ・ 未達成 予定なし
iii 職員教育		
	・ ハラスメント防止についての教育 ・ 利用者の人権尊重についての教育 ・ 職位、職種に係らず受講可能な館外部での研修の受講促進 ・ 老施協、介護福祉士会、その他職能団体、地域連携による研修への参加	・ 館内研修資料の周知、eラーニングでの知識の向上、復習などを継続実施 ・ 未達成
(3) 生産性向上（効率能率UP）		
	・ 効率能率UPに繋がる ICT・AI等を活用し、オンラインによる担当者会議や、事務作業の効率UPに繋げる	・ タブレット端末の活用等で実践中
	・ 定期的に既存業務手順等の見直しと改善	・ マニュアルの見直しなど継続実施
	・ 研修や会議の時間設定,時間外労働数の削減を行う	・ 実施
	・ オートメーション化可能な事柄の検討	・ 勤怠管理システムの導入

③ 権利擁護

項目	達成・成果等
・ ご利用者の尊厳保持、権利擁護を目的とし、正しい知識をもって対応を行う	・ 研修などを通して知識を得、定期的に確認し対応済み
・ 虐待行為の禁止	・ 実施 正しい理解の継続
・ プライバシー保護、個人情報保護	・ 実施 正しい理解の継続
・ 身体拘束ゼロの推進、研修の実施受講	・ 法人内研修及びeラーニングにて受講

④ 防災計画・感染症対策・事故防止対策

項目	達成・成果等
(1) 防災計画	
i 水害対策訓練 ・ 利根川、小貝川、北浦川、相野谷川の水位状況の把握の仕方や、その状況に応じた避難準備や指示の方法を学ぶ ・ 持ち出し物品の選定と実施訓練	・ 特養と同様

	- 各利用者への安全確認及び避難連絡 - 全職員への通達訓練（一斉メール活用訓練）	
ii	地震対策訓練 - 事務所の火災箇所、破損個所の確認や給水タンクへの貯水、物品持ち出しの訓練 - 各利用者への安全確認及び避難連絡 - 全職員への通達訓練	・特養と同様
iii	火災対策訓練（年2回） - 消防計画に則り各想定において訓練を実施 - 通報、消火、避難対応訓練の実施	・特養と同様
iv	在宅における災害支援 - 平常時より利用者のリスク管理、避難場所の把握 - 災害時利用者の安否確認、支援の必要性の判断と対策 - 訪問、移動中の災害発生時対応	・ショートと同様
v	移動時の安全運転にかかわる訓練 - 安全運転研修の受講と安全運転の心がけ - 定期的な安全運転講習等の受講 - 交通事故、災害等イレギュラーなトラブルへの対応	・会議時に実施
vi	防犯対策訓練 専門家を招いた防犯対策研修や、契約警備会社との通報訓練の実施	・特養と同様
(2) 感染症対策		
	5類としての新型コロナウイルス対策の強化と情報連携の継続	・訪看看護師より指示を受け実施
	主治医、嘱託医、産業医、保健所、協力医療機関 その他公的機関との連携、相談、指示の元対応	・実施
	最新情報収集をもとに各種感染症に対するマニュアルの確認と必要に応じた更新	・実施
	各種感染症に対する予防や対応訓練を実施(年2回)	・ヘルパー会議時等に実施
	感染症対策委員会や訪看、医務室が行う内部研修の実施	・業務都合に合わせて参加
	ご利用者、職員共に予防接種の実施とその把握 (インフルエンザ・コロナワクチン)	・実施
(3) 事故防止対策		
	- 利用時の転倒、体調急変等についての事前の取り決め - 主治医、訪問看護等との医療連携、情報共有 - ご家族への連絡方法の把握 - ケアマネジャー、保険者、必要機関等への報告	- マニュアルなどで周知 - 訪看との連携、情報共有実施、継続 - 把握し、実施 - 実施

⑤ ご家族・公的機関等との対応

項目	達成・成果等
(1) ご家族との対応	
・ ご家族との日頃よりの情報連携、ご要望、苦情等あった場合の対応、報告、記録	・ 実施 管理者へ報告し対応
・ 法人内他事業所と連携し、必要に応じて利用者等からの相談に対応を	・ 在宅会議を通して連携実施
(2) 公的機関との連携、協力（県、市、保険者、保健所など）	
・ 公的機関主催の各種会議や研修への参加、委員としての出席	・ 参加無し、委員無し
・ 公的機関主催の行事等への参加、協力	・ 事業所としての参加は無し
・ 感染症や苦情、事故等についての報告、相談	・ 実施 管理者へ報告し対応
(3) その他の機関との連携、協力（訪問看護協会、経営協、全国老施協、茨城県老施協等）	
・ 各種会議や研修への参加、行事等への参加、協力	・ 事業所としての参加は無し
・ 情報収集し、活用	・ 情報を職員に周知し活用している 継続
・ 有事の際の相談、支援の依頼先としての位置付け	・ 有事があれば協力体制としている 継続

1. 居宅介護支援事業所水彩館

① 平均顧客数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
要支援（人）	41.0	40.0	38.0	36.0	27.0	28.0	26.0	25.0	23.0	21.0	19.0	19.0	28.6
要介護（人）	130	139	144	146	140	144	144	144	143	130	113	116	136.1
利用者数（人）	150.5	159.0	163.0	164.0	153.5	158.0	157.0	156.5	154.5	140.5	122.5	125.5	150.4

（※要支援者は、0.5名として換算する。）

② 要介護度別状況（名）

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
要介護	1	75	81	82	84	76	77	77	79	77	70	61	58	75
	2	25	25	25	27	29	31	32	30	30	27	23	29	28
	3	15	14	16	18	19	17	19	20	21	19	17	16	18
	4	12	13	15	14	13	15	13	12	12	12	9	10	13
	5	3	6	6	3	3	4	3	3	3	2	3	3	4
計		130	139	144	146	140	144	144	144	143	130	113	116	136

① 収益計画

項目	達成・成果等
・ 目標月顧客数 150.6 名	・ ほぼ達成 150.4 名
・ 特定事業所算定の要件等を継続	
・ 地域包括等との関係性を強化し、新規利用者の確保へつなげる	・ ケースの報告や研修参加等によりコミュニケーションを図り、新規相談等を受ける
・ 併設事業所との連携を強化し、在宅部全体における収益とサービス力向上に貢献する	・ ケース対応及び会議等にて連携を図り、必要に応じ同法人の利用に繋げている
・ 報酬改定による新たな加算の検討	・ 該当なし
・ 予防支援事業所の指定	・ 検討中

② 職員教育・生産性向上計画（技術・研修・効率）

項目	達成・成果等
(1) 技術力向上	
- 顧客や連携事業者とのコミュニケーション力を高める - ケアプラン作成及び、変更時のアセスメント力を高める - 権利擁護に関する支援方法を学ぶ - ハラスメントに関する対応方法を学ぶ	- 各自事業所内外での会議、研修に参加し（法定内・外研修）必要に応じ内容を伝達し共有 - ハラスメント対応について検討し、重要事項説明書に別紙追記
(2) 認知症対応	
・ 認知症の行動心理症状の発現理由を探究し穏やか	・ 法人内研修に参加

	- に生活いただくための取組み ・ ご本人のその人らしさを継続するためのご本人の思いを聴く取組み（ACP） ・ 認知症介護に係る専門的な研修の受講の継続 ・ 認知症の方が暮らしやすい地域であるための認知症の理解や整備	・ 管理者が認知症介護についての研修を受講し、利用制度や権利擁護等について事業所内会議やケース検討に活用 ・ 必要に応じ認知症ケアの正しい理解や対応について、法人内外で講習や研修を実施
(3) 研修について		
i 内部研修		
	・ ジョブメドレーアカデミーを活用したオンライン研修を引続き行う（介護職・医療職・支援職・事務職・その他専門職全職種が受講） ・ 全職員認定調査員現任研修の参加 ・ 介護支援専門員更新研修 ・ 茨城県介護支援専門員協会研修参加 ・ 取手市介護支援専門員協会研修参加 ・ 各自の基礎資格、スキルに応じた研修の参加	・ 各自必要に応じジョブメドレー利用し研修を実施
ii 外部研修について		
	・ 知識の向上、最新情報収集、内部研修実施等のため職種、職位ごとの受講促進 ・ 館内での外部講師による研修の実施、その受講 ・ 介護支援専門員協会、老施協、その他職能団体、地域連携による研修受講の促進 ・ 地域や職能団体等の依頼に応じて外部講師として専門職の派遣	・ 所属職員全員認定調査現任研修受講済 ・ 取手ケアマネ協会主催の研修会議2回参加 ・ 茨城県老施協主催 認知症介護リーダー研修受講（管理者が参加）
(4) 生産性向上（効率能率UP）		
	・ 効率能率UPに繋がる ICT・AI等を活用し、オンラインによる担当者会議や、事務作業の効率UPに繋げる	・ タブレット端末、介護ソフト連携機能の活用等で実践中
	・ 浸透している既存業務手順等の見直しと改善	・ 検討中
	・ 研修や会議の時間設定、時間外労働数の削減を行う	・ 対応中
	・ オートメーション化、デジタル化可能な事柄の検討	・ 勤怠管理システムの導入
	・ 研修や勉強会の在り方を検討し、優位性を高めた無駄のない人材教育方法を検討	・ 検討中

③ 権利擁護

項目	達成・成果等
・ ご利用者の尊厳保持、権利擁護を目的とし、正しい知識をもって対応を行う	・ 必要に応じ成年後見制度の利用支援や認知症の方の意志決定支援を検討
・ 虐待行為の禁止	・ 事業所内でケース検討し正しく理解し対応
・ プライバシー保護、個人情報保護	・ 対応中
・ 身体拘束ゼロの推進、研修の実施受講	・ 内部研修及びジョブメドレーを活用し受講

④ 防災計画・感染症対策・事故防止対策

項目	達成・成果等
(1) 防災計画	
i 水害対策訓練 ・ 利根川、小貝川、北浦川、相野谷川の水位状況の把握の仕方や、その状況に応じた避難準備や指示の方法を学ぶ ・ 持ち出し物品の選定と実施訓練 ・ 各利用者への安全確認及び避難連絡 ・ 全職員への通達訓練（一斉メール活用訓練）	・ 法人内訓練やメールによる内容を把握 ・ 事業所単位ではBCPに沿ったケース毎の対応検討中
ii 地震対策訓練 ・ 事務所の火災箇所、破損箇所の確認や給水タンクへの貯水、物品持ち出しの訓練 ・ 各利用者への安全確認及び避難連絡 ・ 全職員への通達訓練	・ 法人内訓練やメールによる内容を把握 ・ 事業所単位ではBCPに沿ったケース毎の対応検討中
iii 火災対策訓練（年2回） ・ 消防計画に則り各想定において訓練実施する ・ 通報、消火、避難対応訓練の実施	・ 消火器の位置や使用方法等を把握
iv 在宅における災害支援 ・ 平常時より利用者のリスク管理、避難場所の把握 ・ 災害時利用者の安否確認、支援の必要性の判断と対策	・ BCPに沿ったケース毎の対応検討中
v 送迎時の安全運転にかかわる訓練 ・ 安全運転研修の受講と安全運転の心がけ ・ 災害含む、イレギュラー的なトラブル時への対応	・ 各自マニュアル確認し対応
vi 防犯対策訓練 ・ 専門家を招いた防犯対策研修や、契約警備会社との通報訓練の実施	・ 法人内研修へ参加し、内容を把握
(2) 感染症対策	
・ 新型コロナウイルス対策の強化と情報連携の継続	・ 利用者や関係機関等との情報共有継続
・ 主治医、嘱託医、産業医、保健所、協力医療機関 その他公的機関との連携、相談、指示の元対応	・ 実施継続
・ 最新情報収集をもとに各種感染症に対するマニュアルの確認と必要に応じた更新	・ 事業所特有事項を追加更新
・ 各種感染症に対する予防や対応訓練を実施(年2回)	・ 未対応
・ 感染症対策委員会や訪看、医務室が行う内部研修の実施	・ 法人内研修に参加
・ ご利用者、職員共に予防接種の実施とその把握 (インフルエンザ・コロナワクチン)	・ 利用者や関係機関等との情報共有により実施

⑤ ご家族・公的機関等との対応

項目	達成・成果等
(1) ご家族との連携、対応	
・ ご家族との日頃よりの情報連携、ご要望、苦情等あった場合の対応、報告、記録	・ 各自実施、苦情や対応困難なケースは事業所内にて情報共有
・ 法人内他事業所と連携し、必要に応じて利用者等からの相談に対応を	・ 随時連携し情報共有しながら対応
・ 質の高い相談支援技術、ケアマネジメントの推進	・ 積極的にインフォーマルサービスを活用
(2) 公的機関との対応	
・ 公的機関主催の各種会議や研修への参加、委員としての出席 ・ 公的機関主催の行事等への参加、協力 ・ 保険者、近隣保険者との日常的な連携、情報共有の継続 ・ 地域包括支援センターと連携し、支援困難な事例にも居宅介護支援を提供できる ・ 行政や包括支援センター等の開催する医療、介護にかかる事例検討会、研修の参加	・ 随時保険者への報告、相談を実施継続 ・ ケースの空き等により困難事例に対応 ・ 包括主催の会議、研修会への参加
(3) その他の機関との連携、協力(介護支援専門員協会、経営協、全国老施協、茨城県老施協等)	
・ 各種会議や研修への参加、行事等への参加、協力 ・ 情報収集し、活用 ・ 有事の際の相談、支援の依頼先としての位置付け ・ 介護支援専門員実務研修等への協力	・ 状況に応じ対応及び実施

2, 訪問看護ステーション そら

① 平均訪問回数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
目標値	364.0	364.0	364.0	364.0	364.0	364.0	364.0	364.0	364.0	364.0	364.0	364.0	364.0
実績値	339.8	311.0	353.3	360.3	324.5	285.0	285.0	310.0	290.3	283.7	268.0	306.5	309.8
達成率	93.4%	85.4%	97.1%	99.0%	89.1%	78.3%	78.3%	85.2%	79.8%	77.9%	73.6%	84.2%	85.1%

① 収益計画

項目	達成・成果等
・ 目標月訪問件数 364 回	・ 未達成 309.8 回
・ 事業所認知度向上を目指し、困難事例や強みを強調しながら、効率的な営業活動を	・ 月1回営業実施 今後も継続
・ 認知度改革を検討（地域のために役立つ・依頼が容易であること）	・ 新規CM事業所等への訪問実施 今後も継続
・ 近隣医療機関、クリニック等との連携強化	・ 医療連携実施 今後も継続
・ サ高住や住宅型有料への営業活動を	・ 未実施
・ 新規提携先を開拓（3か所）	・ 達成
・ 併設居宅からの紹介者数向上の努力を	・ 引き続き連携を継続
・ 看護師の増員	・ 現在対応中

② 職員教育・生産性向上計画（技術・研修・効率）

項目	達成・成果等
(1) 技術力向上	
・ 医療依存度の高い利用者を対象にした地域訪問看護ステーションの研修の参加 ・ 経験豊富なスタッフから技術を学ぶ ・ あらゆる利用者の看護展開ができるよう誰もが訪問できる体制の構築 ・ 困難事例を受け入れ地域医療・多職種の繋がりを構築する ・ オンライン等DX対応を視野に入れた学びと試行を	・ 研修は各々参加し自己研鑽 継続 ・ 職員間で対応中 ・ 全職員が訪問対応可能な体制を構築 ・ 困難事例を断る事なく受諾 ・ 事務が対応 継続
(2) 研修について	
i 内部研修 ・ S-QUEを活用したオンライン研修の継続 ・ 経験豊富なスタッフを中心とした研修会開催 ・ ケースカンファレンス実施 ・ 同行訪問の振り返り実施	・ 各々で自己研鑽 義務化研修全員 ・ 実施中 ・ カンファレンス月1程度実施 継続 ・ 実施中
ii 外部研修 ・ 茨城県看護協会教育計画に沿い、各々が積極的に参加し自己研鑽を ・ 日本看護協会教育計画に沿い、各々のが積極的に参加し自己研鑽を	・ 各自が参加し自己研鑽 継続

	・ 地域病院主催の研修に、各々が積極的に参加し自己研鑽を	
(3) 生産性向上（効率能率UP）		
	・ 効率能率UPに繋がる ICT・AI等を活用し、オンラインによる担当者会議や、事務作業の効率UPに繋げる	・ タブレット端末の活用等で実践中
	・ 浸透している既存業務手順等の見直しと改善	・ その都度見直し改善
	・ 研修や会議の時間設定,時間外労働数の削減を行う	・
	・ オートメーション化可能な事柄の検討	・ 勤怠管理システムの導入

対応中

③ 防災計画・感染症対策

項目	達成・成果等
(1) 防災計画	
i 水害対策訓練 ・ 利根川、小貝川、北浦川、相野谷川の水位状況の把握の仕方や、その状況に応じた避難準備や指示の方法を学ぶ ・ 持ち出し物品の選定と実施訓練 ・ 各利用者への安全確認及び避難連絡 ・ 全職員への通達訓練（一斉メール活用訓練）	・ 施設全体訓練への参加を検討
ii 地震対策訓練 ・ 事務所の火災箇所、破損個所の確認や給水タンクへの貯水、物品持ち出しの訓練 ・ 各利用者への安全確認及び避難連絡 ・ 全職員への通達訓練	・ 施設全体訓練への参加を検討
iii 火災対策訓練（年2回） ・ 消防計画に則り各想定において訓練実施する ・ 通報、消火、避難対応訓練の実施	・ 施設全体訓練への参加を検討
iv 在宅における災害支援 ・ 平常時より利用者のリスク管理、避難場所の把握 ・ 災害時利用者の安否確認、支援の必要性の判断と対策 ・ 訪問、移動中の災害発生時対応	・ 新規利用者の災害対策への方法等を検討し促す
v 送迎時の安全運転にかかわる訓練 ・ 安全運転研修の受講と安全運転の心がけ ・ 災害含む、イレギュラー的なトラブル時への対応	・ 内部研修にて対応
vi 防犯対策訓練 ・ 専門家を招いた防犯対策研修や、契約警備会社との通報訓練の実施	・ 施設全体訓練への参加を検討
(2) 感染症対策	

・ 各種感染症対策の強化と情報連携の継続	・ 地域のステーション等と連携及び対応し業務を遂行
・ 主治医、嘱託医、産業医、保健所、協力医療機関 その他公的機関との連携、相談、指示の元対応	・ 医師と連携し対応
・ 最新情報収集をもとに各種感染症に対するマニュアルの確認と必要に応じた更新	・ マニュアル更新を検討中
・ 各種感染症に対する予防や対応訓練を実施(年2回)	・ 実施済
・ 感染症対策委員会や訪看、医務室が行う内部研修の実施	・ 実施済
・ ご利用者、職員共に予防接種の実施とその把握 (インフルエンザ・コロナワクチン)	・ 実施済

④ ご家族・公的機関等との対応

項目	達成・成果等
(1) ご家族との対応	
・ ご家族との日頃よりの情報連携、ご要望、苦情等あった場合の対応、報告、記録	・ 実施済
・ 法人内他事業所と連携し、必要に応じて利用者等からの相談に対応を	・ 実施済
(2) 公的機関との対応	
・ 医師会、医療機関等との日常的な連携、情報共有の継続	・ 実施済
・ 公的機関主催の各種会議や研修への参加、委員としての出席	・ 実施済
・ 公的機関主催の行事等への参加、協力	・ 未実施
・ 保険者、近隣保険者との日常的な連携、情報共有の継続	・ 実施済
・ 行政や包括支援センター等の開催する医療、介護にかかる事例検討会、研修の参加	・ 連携実施
・ 行政や担当部署や包括支援センター、居宅介護支援事業所等との連携	・ 有事があれば連携実施
(3) その他の機関との連携、協力（訪問看護協会、経営協、全国老施協、茨城県老施協等）	
・ 各種会議や研修への参加、行事等への参加、協力	・ 実施済
・ 情報収集し、活用	・ 情報を職員に周知し活用
・ 有事の際の相談、支援の依頼先としての位置付け	・ 有事の事があれば協力体制を行う

3, 移送サービス水彩館

① 平均訪問回数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
目標値	34.5	34.5	34.5	34.5	34.5	34.5	34.5	34.5	34.5	34.5	34.5	34.5	34.5
実績値	24.0	49.0	32.0	35.0	46.0	36.0	36.0	44.0	45.0	42.0	37.0	43.0	39.1
達成率	69.6%	142.0%	92.8%	101.4%	133.3%	104.3%	104.3%	127.5%	130.4%	121.7%	107.2%	124.6%	113.3%

① 収益計画

項目	達成・成果等
・ 目標月訪問件数 34.5 件	・ 達成 39.1 回
・ 計画基準単価は、1 送迎 1,000円にて算出する（往復は2回と算定）	・ 左記単価にて算定
・ 登録委託者の確保(1名以上)	・ 達成、年度末に1名確保
・ 送迎種別の多種化を検討	・ 小売店への買い物利用や社会活動参加への送迎も実施
・ 併設事業所との連携を強化し、在宅部全体における収益とサービス力向上に貢献する	・ 在宅連携会議参加にて、他事業所共通の利用者等の情報共有を行う

② 職員教育・生産性向上計画（技術・研修・効率）

項目	達成・成果等
(1) 技術力向上	
- 内部での安全運転研修へ移送運転者も参加 - 利用者移送時の急変時への対応策を学ぶ - 利用者の日常動作に異変を感じた場合、キーパーソンやCMへの報連相を行う	- 安全運転、緊急時等の対応を送迎部門を中心に再確認を実施 - ご利用者の担当ケアマネとの連携にて、利用時の特変等を報告
(2) 研修について	
i 内部研修	
- ジョブメドレーアカデミーを活用したオンライン研修を引続き行う（介護職・医療職・支援職・事務職・その他専門職全職種が受講） - 移送における注意事項や、運転技術及び道交法等の研修を実施	- オンライン研修にて車種別の福祉車両の特徴等を学び、伝達研修を実施 - 実務上、見落としがちな道交法を周知確認例）横断歩道における歩行者保護 等
ii 外部研修	
社協主催の移送サービス研修に参加	夏季の講習会へ講師として参加 項目：「緊急時対応」
(3) 生産性向上（効率能率UP）	
外部委託者の確保とその方法を検討	年度末ボランティア1名 来年度本格稼働
浸透している既存業務内容等の見直しと改善	クラウド型予定管理ツールを活用

③ 防災計画・感染症対策

項目	達成・成果等
(1) 防災計画	

	i 水害対策訓練 ・ 利根川、小貝川、北浦川、相野谷川の水位状況の把握の仕方や、その状況に応じた避難準備や指示の方法を学ぶ ・ 持ち出し物品の選定と実施訓練 ・ 各利用者への安全確認及び避難連絡 ・ 全職員への通達訓練（一斉メール活用訓練）	・ 悪天候時は運行の中止を事前に説明済 ・ 利用者情報等はスムーズに持出が可能となる物を使用。また外部媒体等の活用で緊急時の持ち運びやすさを検討
	ii 地震対策訓練 ・ 事務所の火災箇所、破損個所の確認や給水タンクへの貯水、物品持ち出しの訓練 ・ 各利用者への安全確認及び避難連絡 ・ 全職員への通達訓練	・ 本体施設での訓練へ参加
	iii 火災対策訓練（年2回） ・ 消防計画に則り各想定において訓練実施する ・ 通報、消火、避難対応訓練の実施	・ 本体施設での訓練へ参加
	iv 在宅における災害支援 ・ 平常時より利用者のリスク管理、避難場所の把握 ・ 災害時利用者の安否確認、支援の必要性の判断と対策 ・ 訪問、移動中の災害発生時対応	・ 業務継続計画にて各部門固有事項を参考し有事への対応を強化
	v 送迎時の安全運転にかかわる訓練 ・ 安全運転研修の受講と安全運転の心がけ ・ 災害含む、イレギュラー的なトラブル時への対応	・ オンライン研修受講 ・ 有事は緊急時の対応マニュアルにて対応
	vi 防犯対策訓練 ・ 専門家を招いた防犯対策研修や、契約警備会社との通報訓練の実施	・ 本体施設での訓練へ参加
(2) 感染症対策		
	・ 新型コロナウイルス対策の強化と情報連携の継続	・ 体調確認を運転者健康チェック実施
	・ 主治医、嘱託医、産業医、保健所、協力医療機関 その他公的機関との連携、相談、指示の元対応	・ 利用者担当ケアマネとの報連相にて対応
	・ 最新情報収集をもとに各種感染症に対するマニュアルの確認と必要に応じた更新	・ 在宅部門策定感染症BCPに則った対応を実施
	・ 各種感染症に対する予防や対応訓練を実施(年2回)	・ 本体研修への参加
	・ 感染症対策委員会や訪看、医務室が行う内部研修の実施	・ 本体訓練への参加
	・ サービス実施前日の体調確認	・ 実施
	・ ご利用者、職員共に予防接種の実施とその把握 (インフルエンザ・コロナワクチン)	・ 一部未実施

⑦ ご家族・公的機関等との対応

項目	達成・成果等
(1) ご家族との対応	
・ ご家族・ご本人とのコミュニケーションで適度な信頼関係を構築する	・ ご利用者との適切な距離感を保つよう誠実で適切な対応を心掛ける
・ ご家族との日頃よりの情報連携、ご要望、苦情等の対応、報告、記録	・ 本年度の苦情等 0件
・ 法人内他事業所と連携し、いつでも必要に応じて利用者等から相談できる体制	・ 在宅連携会議にて現状と困りごとの共有 専門職からの視点でアドバイスを頂く
・ 担当CM、MSWへの情報共有、PRを定期的に行う	・ 未実施
(2) 有償ボランティアの対応	
・ スケジュール表の管理 ・ 利用者情報の共有 ・ 守秘義務の徹底 ・ 謝金の請求支払い	・ 本年度実績なし
(3) 公的機関との対応	
・ 公的機関主催の各種会議や研修、協議会、講習会への協力参加、委員として出席 ・ 公的機関主催の行事等への参加、協力 ・ 各情報提供依頼への協力 ・ 感染症や苦情、事故等についての報告、相談	・ 移送団体連絡会参加（R6年度は2回） ・ 福祉有償運送協議会参加（12月） ・ 苦情、事故件数 0件